

塗装の美しさには定評がある。もともと家具工であるファツィオリ家では、兄弟のひとりが造船業をしていて、糊や塗装の技術はこの兄から学ぶところが多いのだとか。表面を磨く作業には、女性の職人が多い「お化粧のようなものですから、男性より女性に向いている人が多いんですよ」（エレーナさん）

リムを作るメイプルとマホガニーの合板は、じっくりとプレスされる。季節によってはプレス用の金属に熱を通して温めながら、より時間をかけてゆっくり貼りあわせる。ちなみにどの木材がベストなのは、常に模索中なのだそうです

弦を張る工程。実はこのピアノ本体、鍵盤側が高くなるよう傾けてある。これにより、適度な張りにする微妙な作業を助けている

木材フレームの製造工程には、家具工場などで働いていたベテランの職人を雇うことが多い。金属のボルトは必要最低限しか使わず、できるだけ木材のみでつないでいく。単体で造られた内リムにこれらの支柱が固定されることで、より頑丈なボディが生まれる



惜しみなく、
時間と手間をかけて



FAZIOLITM
[イタリア、サチーレ] **ファツィオリ**

年間生産台数：100台 職人の数：約35名

ジャズピアニスト、岸ミツアキさんの
カスタムメイドピアノ

惜しみなく、時間と手間をかけて、1台のピアノを造りあげる。何かの真似は絶対にしてない。そして、より良いピアノ造りのために、挑戦を怠らない。

創業者で社長のパオロ・ファツィオリのピアノ製作にかける精神は、再現芸術であるクラシックの演奏家が、過去に偉大な演奏家ごまんといる中で、自ら演奏し、高みを目指すその精神と似ている。大学の工学科の他に音楽院のピアノ科も卒業している同氏は、学生時代、さまざまなピアノに出会うにつけ、その質に満足できず、自分でもっと良いものを作る高みに挑戦するようになったのだという。

「人間はそれぞれに進化をとげます。私たちは1分たりとも同じではないませんから、1時間後の私はまた違った人間になっているでしょう。芸術家の人生とはそういうものですし、また、向上したいと願うのは人間の特質です。新しい考えが浮かんだら試してみることです。長い目で見ると、こうした人類の挑戦が、革新や改善をもたらしてきたのです」

北イタリアのサチーレという街にある、ファツィオリの工房。あちこちで、たくさんさんのピアノが次の工程を待っている。これは良質のピアノ造りに必要な充分な時間を置くた

特集 ↓ 世界のピアノ工場
秘密の現場!



打弦した際に、振動する弦とその弦の倍音構成された前後の弦を共鳴させる、デュプレックス・スケール・システム。ファツィオリでは、移動させて調律可能なアリコートブリッジと、鉄骨フレームから独立した移動が可能なデュプレックスを開発。より精密な調整をすることが可能となった



鏡に映して確認しながら、アクションや鍵盤の間隔を中央に位置づける調整の作業。0.1ミリの薄い紙を挟んで調整するという繊細な作業だ。3時間ほどかけて1台の作業が終わる



再度の調整の前に強い打弦を施す。不思議とメーカーによってその音が違う



オプションで設置が可能な、特許も取得している独自の第4ペダルを下から拝見。音色を変えことなく音量を小さくすることができる。ハンマーと弦の距離が近くなり、なおかつ鍵盤の深さも浅くなって、速いパッセージやグリッサンドが演奏しやすくなる



こちらの3つの部屋で、それぞれに技師が整音の作業をおこなっている



響板につけるコマは、弦の最初の振動をつくる大切なポイント。手作業で削る。低音、中音、高音で、それぞれに適した異なる木材を使用する



響板にはストラディヴァリに使用しているのと同じ赤トウヒを使用。太陽に向かってまっすぐ伸びている、森の真ん中に生えた木材だけを使う。組み合わせを見極め、貼りあわせて1枚の板にし、3年以上置いて水分調整をする



同音の弦が水平になっているかを慎重に調べる



ハンマーに針を刺す作業中。力作業で汗びっしょり!

丁寧な手作業で仕上げられ、絶妙な曲線を描く響板



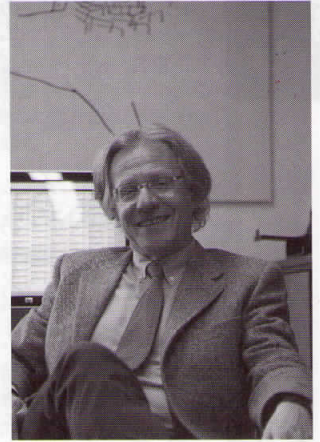
案内をしてくれた、エレーナ・ツルミさん

めにおこなわれていることで、1台できあがるまでには3年以上の歳月がかけられる。職人は、全部で35人しかいない。作業を見せてくれる彼らすべてに、不思議と親しみを覚えたのはなぜだろうか。

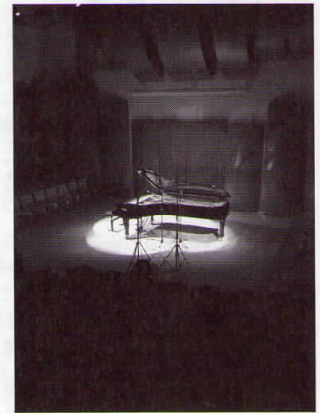
ふいに、ようやく完成を迎えたピアノが並ぶスペースから、豊かな音が響いてくる。見ると、パオロさんが出荷を待つピアノに向かい、ダイナミックに鍵盤をかき鳴らしていた。そうして、職人たちとぎやかに意見を交わしながら、工房の奥へスタスタと消えていった。

「この職人たちから先ほど感じた親しみは、パオロさんがひとりひとりの職人と密に接していることから来るものかもしれない。ファツィオリの、製造工程、パーツのすべてが大切にされているのと似ている。それぞれの職人が自信に満ちた顔と個性的な性格を持って、日々の作業に臨んでいるという雰囲気があった。トップの人間の目が届き、クオリティを把握できる規模のチームでピアノが造られている。この工房の様子が、ファツィオリのピアノには、確かな品質と細やかな気遣いが保証されているということを現わしていた。」

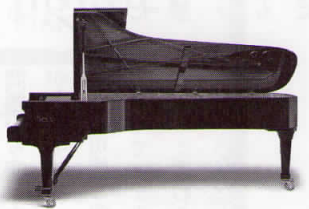
ファツィオリ パオロ・ファツィオリ社長 PAOLO FAZIOLI



パオロ社長が自身でピアノを演奏することはもちろん、工場の技術者たちもピアノを弾くという。「彼ら技術者たちの仕事は、文化を創り、より豊かにすることです。ピアノももちろん練習していますよ!」



2005年に本社敷地内に完成したファツィオリホール。隣の工房からピアノを運び、ホールでの響きを確認することもできる



『F308』は、通常のフルコンよりもさらに大きい全長308cm

「ピアノとピアニストの関係がもつとも重要」

——ピアノ造りでもつとも気にかけていることは何でしょうか？

ピアニストと、ピアノの関係です。楽器は常に、ピアニストが触れた瞬間に自信を与えるものでなくてはなりません。そのためには、ピアノに柔軟性がなくてはならない。たとえピアニストがちよつと変わったことを望む人でも（笑）、ピアノがそれに寄り添えなくてはいいけません。私が音楽学校時代に強く感じたのは、多くのピアニストたちがまるでピアノと戦っているようだという点です。オーケストラと対等になろうとピアノが壊れそうなるほど力を加えなくてはならな

い。演奏者に原因がある場合もありますが、それはやはりピアノが友好的でないからでしょう。私は、ピアニストがピアノと戦っているのを見るのは本当に嫌なんです。戦わなくても、豊かな音を出すことができます。そうすれば、演奏も最後までフレッシュです。多くのメーカーでは、ピアニストがピアノを判断しますが、ファツィオリの場合はピアニストとメーカーはひとつのグループにいて、もつと親しみのある間柄であるという考えでいるのです。

——美しいアートケースピアノも魅力的ですが、音色を保つための苦労はありますか？

美しいアートケースピアノも魅力的ですが、音色を保つための苦労はありますか？

形を変えらることももちろん音は変わりますから、そのマイナスを補うような画期的な発見が必要とされます。そしてそれは、新たなモデルを造るときへの非常に良い経験、知識となります。

——幼少期に、家のピアノの内部を開けてみたことがピアノの構造に興味を持った最初と伺いましたが。

ひどい音がするから何か変えたら良いに違いないと思ってね！家が家具工場に木に囲まれていましたから、自然なことでした。そもそも「ピアノ的なもの」との出会いには3歳のころ。第2次世界大戦後の貧しい中で、『ピアノニニ』という小さなピアノを道端で

奏でて聴かせる人がいました。母と一緒にいた私は、母を置き去りにして（笑）その楽器のところに駆けていった。よく覚えています。これが、この「音の出る箱」との出会いでした。

——ファツィオリの目指す音のイメージは何でしょうか？

イタリアの言語の、流れるようなベルカントです。このイメージがありましたから、初めから何かのまねをするのもなく、またむしろ既存のピアノを批判的に検証することで独自の技術を開発していきましました。

ピアノによって多くの人がピアノを手にし、幸せになることができたのは、意義のあることです。

ファツィオリでは、私が最後に弾いて、承認したピアノのみを出荷します。これ以上増やせば品質管理ができません。ですから今の生産台数で充分なのです。しかしピアニストには、保守的で触れたことのないピアノを避ける人も多い。生産台数を増やして私たちの哲学を曲げるつもりはありませんから、これからはショールームを増やすなどして触っていただく機会を増やしていけたらと思います。

グロバリゼーションとともにピアノ製作がビジネス化してしまいました。ただし、安い

ピアノフォルティ株式会社 本社&ショールーム
[所在地]東京都港区海岸3-2-15 潮路橋ビル
(JR 田町駅/都営三田線、ゆりかもめ 芝浦埠頭駅)
ホームページ <http://www.fazioli.co.jp>
Tel: 03-6809-3534 E-mail: info@fazioli.co.jp

History▶ローマの家具工場に、6人兄弟の末っ子として生まれたパオロ・ファツィオリは、ピアノを学びながらローマ大学で工学を専攻。同時にロッシーニ音楽院でピアニストとしての学位を取得。1978年、サチーレ市の家具工場の一角でピアノ製造を始める。1981年、ファツィオリ社設立、1984年には世界の著名ピアニストがファツィオリのピアノを使用しはじめる。1986年には、F308を発表。2001年、現在の当社である新工場が完成する。2008年、日本の総代理店ピアノフォルティ株式会社設立。